

ピースクラブ通信

No.62

発行 社会福祉法人 ピースクラブ
 所在地 〒555610014 大阪市浪速区大国一丁目十一番一
 連絡先 TEL 06-66647120077
 FAX 06-66647120087
 Eメール peaceclub@sz.dion.ne.jp
 H.P.L http://www.ab.aunone-net.jp/~peace_c/

ピースクラブの織物 パート4

上田 友子

最終回は、さをりベテラン3人の現況の紹介です。

田中都也君(郁ちゃん)

彼は『さをり命』。毎木

金曜日のピタッと2時には、二階のワーキングスペースで待機しています。『整経』

『箄通し』『綜統通し』ここまでは一気にこなします。

大ベテランか、といえどもと違う。『整経』は2メートルの長さならば正しく操作できる。『箄通し』は、本来、一本ずつ綾になった糸を上

から順に箄に通していくのですが、この操作がとてもつかしい。『綜統通し』は一本でも通し順を間違えると織れない。適宜チェックが必要となつてきます。経糸の巻き付けはいつも一緒にやります。これでやっと織る準備が整いました。織り始めると約4時間、必死に一日で織ってしまします。

① 織物を始めたころ、帰

り「ごころうさん」と挨拶しました。これはいかんとびっくり、帰りの挨拶は、双方から「ありがとうございしました」を励行。現在もお互いに頭を下げて続いています。

② 彼が織っているときに、ときどき用事で呼びに来られます。決して嫌な顔をしない。さっと席を立っていきます。

③ 木曜日は『ちかちゃん』の終了時刻五時十五分まで付き合っ作業してくれています。ごく最近決めたことですが、郁ちゃんの健康管理にみんなで協力するこ

と。即ち作業中は誰も間食しないこと。などです。

木村あかねさん(あかねちゃん) あかねちゃんは、視覚・空間処理にずばぬけて高い能力を持っています。二枚綜統の「さをり」織機を使って織っていたころ操作について完璧にマスターし、織りに変化を求めていました。千鳥格子、透かし織り、かけ織りなどに彼女の色彩感覚を生かして変化を楽しみました。

④ 四枚綜統の織機が休眠していたので、これにチャレンジ。綜統が二枚の場合は、平織

が基本になるが、四枚綜統は四枚の綜統の通し順や、踏み木の踏み順によって様々な模様になる。これを組織織りといいます。一番簡単な綾織りから始めて現在オーバershott織という相当高度な組織織をしています。これを織るための組織図

というのがあるのですが、パターンブックを見て、図を数字に置き換えて書きとめ、それに従って織っています。四枚綜統で何枚も織っている



いています。今まで私がしていたことを自分で転記してくれているので随分と助かります。織り順を間違ったときは、その位置までほどいて織りなおしています。因みに私はそれが出来ない。

あかねちゃんの作品が大部分たまりました。何とか実用的なものに早く仕立てていきたいと思っっています。遅くなってごめんね。

河野泰子さん(やっちゃん) 四枚綜統の織り機が二台になったのを機に、やっちゃんも四枚綜統を使いたいと希望してきました。

ちょうど戴きものの編み糸がたくさんあり、早く使わないと劣化していきます。中細の編み糸を5センチ幅で6メートル張って「キジムナー」の座布団に仕立てたことがあ

ります。もう一度座布団を織ってもらうことにしました。やっちゃんも納得して取り組みました。『整経』を2メートルは簡単だが、6メートルを250本は、張る順序がむづかしい。何回かに分けて一緒に整経しました。箄通しは完全に自力で。『綜統通し』は平織でも四枚の綜統を全部使わねばなりません。通し順の間違いを修正しながらも、最後まで通し終えました。なかなか根性があります。こうして、平織でひざ掛け用布も織りました。三月の下旬から綾織りに取り組んでいます。踏み木と綜統のタイアップに少し工夫をして、正確な綾織りがはじまった段階です。

の支障にならないように決めています。あかねちゃんの場合、ワンパターンが40越、50越織る場合もあるので途中でやめると訳が分からなくなるという制約もあるのですが、その辺を見越して作業が終了できる大人になってほしいなと願っています。

追記

「のん君の変化を知っても「高い上り框で靴をぬいで部屋に入るのは私にとってちょっとしんどいものがある。よろよろと部屋に入ってしまった。」「だじょうぶ?」とのん君の思いやりの言葉。このことは忘れられない。」

三月三十一日 『織るとき、シャトルを勢よく走らせるので、管に巻いた糸が終わりに近づくと、2メートル近く残る。その始

末を私がするのをずっと見ていた。(指で経糸に緯糸を押し入れ、反対の指で引き出す)糸がなくなるまでこの動作を繰り返す。のん君に自分でするように促す。のん君のお気に入りの動作が一つ増えた。』

四月七日

『急に気温上昇。汗のため、常用のベレー帽を脱いで四階へ上がる。感じが変わったせいか興奮して盛んに私の腕をつねり出す。興奮は無帽のせいだと咄嗟に判断して二階へ帽子を取りに行く。これで安心したのか、ここにこの作業に取り掛かる。』

新しい作品に取りかかると増やしてみた。やはり壁があるようで、前回出来ていたことも混乱する。内容による見極めのむづかしさを味わった

次第である。』

ゆりえちゃんのその後 二月の木曜日、さをりのメンバーがそれぞれ新しいことをやり出し、私自身も飽和状態になりました。一緒にやりかけていた箄通し、私の状況を察知して全く自力で完了しました。飛躍です。織り機の準備、片付けも自分でしています。手伝うのは、唯一緯糸の管への巻き始めだけになりました。

以上で、織物のメンバーの紹介を終わります。しっかりと書きましたが、目を通してくださって、ありがとう。



与太郎の 与太話

みちやもと(道本)さんが倒れて、早いもので一年以上が経ちました。なぜ倒れたのか？原因は未だわかりません。倒れた当初、まったく表情がなく寝たきりだったみちやもとさん。そこから車椅子になり、今は立って歩けるまでに回復しています。なぜか宿敵だったはずの瓶田さんが、みちやもとさんのお世話をかって出してくれました。かつて瓶田さんとみちやもとさんの間に、何があったのか？謎は残りますが…。

みちやもとさんが自分で少し取り戻すまでの間、それは手厚いお世話を瓶田さんは続

けてくれました。なかなか出来ることではありません。ホンマありがたいことです。瓶田さんには本当に申し訳ないことですが、ある頃からみちやもとさんは、瓶田さんのお世話を露骨に嫌かりだしました。

それを見て与太は、あつ！

いやこしやくやこしちゃん、みちやもとさんがちょっと帰ってキッター！と素直にむっちゃ喜んだのを覚えています。ホンマ瓶田さんごめんさい。

瓶田さんのお世話から離れたみちやもとさん。しかしこの頃がなにより辛かったのではないかと与太は勝手に想像しています。自分の意志が伝えられない。自分の身体が以前より思うように動かな

い。そんな自分と向かい合わないといけない環境に追い込まれたのだからと思いません。そんなみちやもとさんは元々プライトが高いお方だけに、自分の情けなさや、歯痒さからくるイラ立ちや不安と戦いながら暴れていたのだろつと思えます。

みちやもとさんに暴れられる環境があつて本当に良かった。暴れるのを怒りながらも温かく見守ってくれる人達が回りにいて本当に良かった。ピースクラブありがとうとございます。ダチとして感謝の言葉意外ありません。

自分をすべて吐き尽くすことが出来たみちやもとさんは今、少しづつではありますが、確実に自己を取り戻しつつあります。夜の生態はわかりませんが、最近自分から暴れる

ことがピタツとなくなりました。穏やかな表情で外や厨房を眺めることが多いみちやもとさん。調子のいい日与太の問いかけに一言、二言、返してくれることもあります。みちやもとさん月日はかかると思いますが、またプラクとお出かけて駅のトイレ工事中、道路工事中などのややこしい報告を与太に願います。まったく似ないルパン三世のモノマネ「不二子ちゃん」もやっちゃて下さい。あと、瓶田さんありがとうございますが本当に良いね。



ちょっと聞いて！
ちょっと聞いて！

〜放置自転車〜

先日、地下鉄谷町線に乗って出戸駅まで降りました。

駅の周りに大手のスーパーイオンがあつて、イオンの周りには、放置自転車の周りには、いつも警備員さんが整理してくれているけど、次から次へと～

自転車がだんだんと増え、ついに：柵が置かれ、車いすやお年寄り等が通りにくくなった。でも、車椅子とかお年寄りの押す乳母車等が通るくらいは道をわざわざ開けてくれるところ：昨日、通ろうと思っ

り道の柵に鎖をかけた自転車置き場が置いていた。そのために通る事ができなかった。その時ムカッと来た！せっかかく車椅子等を通りやすいように開けてくれているのに：そこに自転車を置くか！しかも、柵に『車椅子等が通るの』

で自転車を置かないで』と書いて貼っているのにそれを無視して、自転車を鎖して置いている人は、

どういう神経かな？無神経かな？自分だけよかつたらしいのかな？その人は一人だけ地域ですんでいると思っっているのかな？みなさん、どう思う？

又最近、スマートフォン等を見ながらスマートフォンを見ながら歩いている人が多

くなつて来て、たいへん危険な状況です…。

そこで、僕が今、「イオン」の店長や、「行政」の人達や地域の人達に呼び掛けて、一緒に「放置自転車」の対策を考えてもらって取り組んで行きたいと思ひ、今、呼びかける文章を作成中です。

それは：地域に住む障害のある人達が声をあげていく事が必要と思つて

文責・寺内たかし

福島に行つてきました

聞き取り 大西 洋子

上田先生、さゆりちゃん達が福島へ出かけた。あかねちゃんのリカちゃんキャスルに行きたいという希望から、

福島行きが決まったんだけど。松原君の案内で、有意義な旅だったようで、すごい

強行軍にも関わらず、皆いきいきと帰ってきました。後日報告してくれると思ひます。

「福島は本当にゴーストタウンでした。延々と帰宅困難地域が続く。汚染地域は車しか走れない。6年経って人が住んでいない。朽ちている。すごく広い。痛々しい。無残な光景が続く。山が深い。すべて汚染されている。あちこ

ちにポツンと一軒家があった。マタギかな。かくれ里かな。蝦夷かな。東北の歴史を感じた。

こんな状態なのに原発再稼動とは？。よその国に輸出するってどういうことか？。津波とか、地震もすごいけど、

そのままで、そして誰も居なくなつた。怖いものです。百聞は一見に如かず。行って良かった」と、伝えてくれました。

春さん便り

大西 洋子

春さんなんか言いたいこと言つてよ。という事で、大石さんに指談で聞き取ってもらいました。

幸せなことは平和である

こと平和とは差別がない敵がいらない自分のことと同じ

ように思えば戦争はない争うのではなく共に生きる手段を探せば、必ず見つかるはず誰しもが平和を望んでいるのになぜ戦争に向かうのだろうか 戦争を起すのは誰か 民衆は望まないのに殺されていく

春さんと一緒に居て、心がどンドン平和になつていく。朝から晩までバタバタしているけど、なんだか今まで一番幸せ。ピースクラブもいろいろあるけど、なんとなく皆幸せになれるのは。日本列島いつ何が起こつてもおかしくない。悔いのない生き方をしたいものです。皆でそれでも楽しもうぜ。

